

【 論 文 】

教職課程「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の 指導充実を目指して Part 2

— 「基礎的・汎用的能力」の指導を充実させる取組—

¹南山大学教職センター / ²愛知県立旭丘高等学校

笹尾 幸夫¹・小林 整次²

抄 録

本稿は、教職課程「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の授業の充実を目指したものである。本学では、この授業の参考資料として、文部科学省が作成している「キャリア教育の手引き」を活用している。この中では、キャリア教育で育成すべき力として、4つの「基礎的・汎用的能力」が示されている。しかし、従前の授業では、十分な理解が得られているとはいえない状況であり、また学習指導要領の改訂に伴い、参考資料を修正する必要が生じた。このため、「基礎的・汎用的能力」がまとめられた経緯や、将来これらの力がどのように役立つのかを類似性の高い「社会人基礎力」との関係で説明するとともに、中学校の「特別の教科 道徳」を例として、学習指導要領の改訂に伴った修正案を示した。これにより、「基礎的・汎用的能力」育成の重要性について概ね学生の理解を得ることができた。

また、次年度からの授業をより一層充実するため、愛知県内の高等学校において、特別活動や総合的な探究の時間の中で、「基礎的・汎用的能力」を育成している実践事例を取り上げ、その成果について考察した。

はじめに

本学では、教職課程「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の授業は2019年度から『生徒指導・進路指導論』として実施しており、2011年5月と2012年2月に文部科学省からそれぞれ発刊された「中学校キャリア教育の手引き」と「高等学校キャリア教育の手引き」を参考資料として活用するとともに、キャリア・パスポート導入における問題点とその改善策を考えさせる授業を実施している¹⁾。

しかし、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」の理解は、定期試験の結果から十分とはいえない状況であることが分かった。また、参考資料において、学習指導要領の改訂に伴って修正する箇所が生じていた。このため、授業内容を見直し、より理解を深める授業に改善する必要がある。

併せて、愛知県内の高等学校において、「基礎的・汎用的能力」を育成している事例を具体的に取り上げ、その成果について考察し、次年度からの授業に活用しようと考えた。

I 部 キャリア教育で育成する「基礎的・汎用的能力」の指導充実について

1 「基礎的・汎用的能力」指導の状況

キャリア教育の手引きには、キャリア教育で育成すべき力として、「人間関係形成・社会

形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの「基礎的・汎用的能力」が示されている。これらの能力について、2011年1月の中央教育審議会（以下、中教審という。）答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」²⁾では、「この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。また、これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。」と説明され、キャリア教育の手引きにもそのまま引用されている。

このことから、「基礎的・汎用的能力」は学校種や学校毎にその重要度が異なるのではないかと考え、本学の授業ではキャリア教育とは何かを説明した後、4つの能力の意味を説明することに止めた。

2 「基礎的・汎用的能力」の理解を深めるための取組

しかし、前年度の定期試験において、「基礎的・汎用的能力」の基礎的な内容を出題したところ、十分な理解が得られているとはいえない状況であることが分かった。このため、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」について、さらに理解を深めるための取組が必要と考えた。

高等学校キャリア教育の手引きは、「キャリア発達にかかわる諸能力（例）」として、「4領域8能力」の開発過程を記述している。しかし、この能力は、高等学校までの想定にとどまっているため、生涯を通じて育成される能力という観点が薄く、社会人として実際に求められる能力との共通言語となっていないなどの課題が指摘されていた。中教審は、「4技能8能力」の課題を克服するため、その後に提唱された類似性の高い各種の能力論（内閣府「人間力」、経済産業省「社会人基礎力」、厚生労働省「就職基礎能力」など）と共に、「4技能8能力」を基に「仕事に就くこと」に焦点を当て、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力」として再構成して提示したものが、「基礎的・汎用的能力」であると説明している。

このようなことから、「基礎的・汎用的能力」がまとめられた経緯や、将来どのように役立っていくかを理解させるため、類似性の高い能力論との関係も説明することにした。

また、前述の中教審答申には「初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。」と説明されているが、2017年及び2018年に中学校及び高等学校学習指導要領が告示された後、キャリア教育の手引きは、2023年5月時点まで改訂されていない。そこで、中学校キャリア教育の手引きにおいて、学習指導要領の改訂に対応して作成した修正案を例示し、説明することにした。

なお、学習指導要領の改訂に伴って文部科学省が作成した「中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）」については、2023年6月に同省のホームページに公開され、「中

学校・高等学校キャリア教育の手引き 中学校・高等学校学習指導要領（平成 29 年・30 年告示）準拠³⁾として、2023 年 10 月から発売されている。

3 「基礎的・汎用的能力」と類似性の高い能力論との関係

高等学校キャリア教育の手引きでは、「4 技能 8 能力」の開発過程をコラムとして掲載している。また、「4 技能 8 能力」から「基礎的・汎用的能力」への転換の理由として、以下の 3 点を挙げている。まず、「4 技能 8 能力」では「課題対応能力」の育成に具体性がなかったこと、2 点目は広く仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力の育成が前面に出されていなかったこと、3 点目は忍耐力やストレスマネジメントなどの「自己管理」の側面が重視されていなかったことである。そして、「4 技能 8 能力」と「基礎的・汎用的能力」との関係を図 1 のように示している。

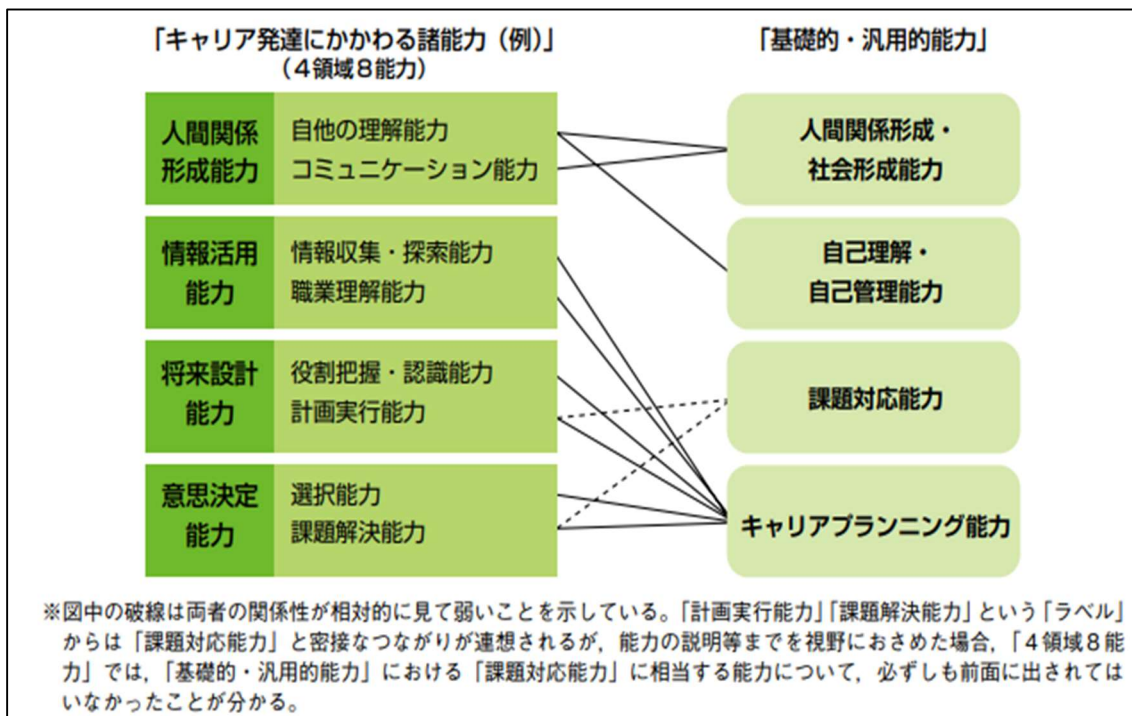


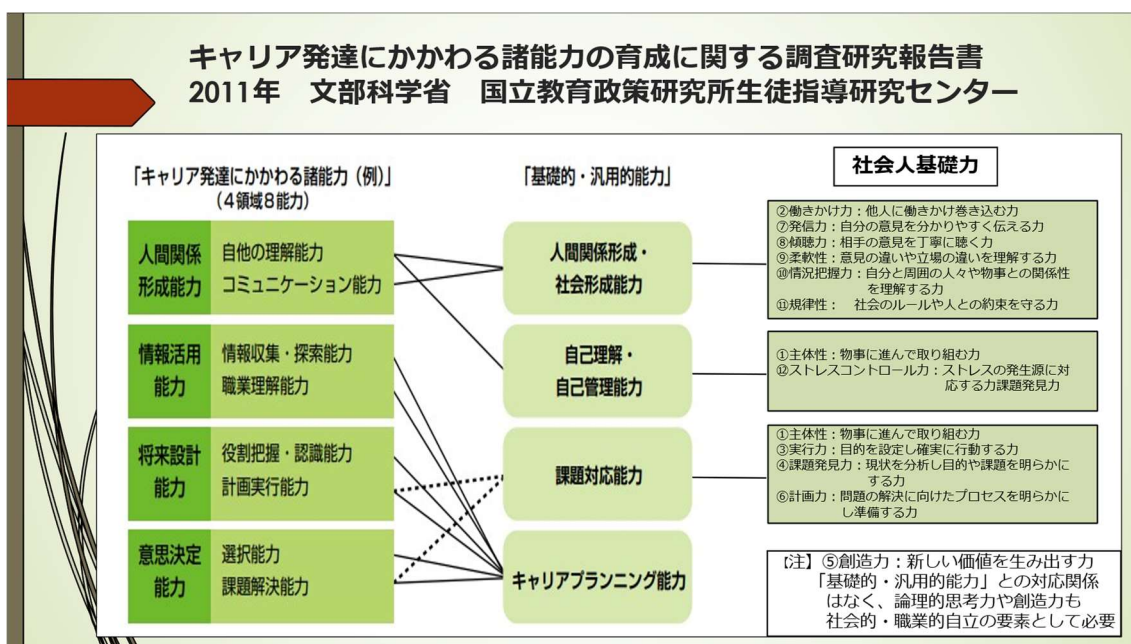
図 1 「4 領域 8 能力」と「基礎的・汎用的能力」との関係

しかし、高等学校キャリア教育の手引きでは、日本経済団体連合会が実施した「新卒採用（2010 年 3 月卒業者）に関するアンケート調査」と東京商工会議所による「2010 年新卒者等採用動向調査」で、「コミュニケーション能力」や「協調性」を企業が重視していることは示しているが、「基礎的・汎用的能力」は「社会人基礎力」や「就職基礎能力」を踏まえて構想されたものとしか示しておらず、両者の関係までは示していない。

また、2018 年に経済産業省中小企業庁の「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」（人材力研究会）報告書⁴⁾は、「人生 100 年時代」に求められるスキルの一つとして、「社会人基礎力」を挙げ、大学教育、就職・採用、新入社員研修などの限られた年代での活用だけでなく、全ての年代が意識すべきものとして捉えなおす必要があるとその重要性を指摘している。

そこで、中教審が「基礎的・汎用的能力」をまとめる際、参考にした類似性の高い能力論のうち、経済産業省が多様な人々と仕事をしていくうえで必要な基礎的な力としてまとめた「社会人基礎力」を授業で取り上げ、「基礎的・汎用的能力」の4つの能力と「社会人基礎力」の諸能力との関係を明らかにし、企業が求める人材像を示せば、「基礎的・汎用的能力」の重要性の理解が深まるのではないかと考えた。

国立教育政策研究所生徒指導研究センターが2011年にまとめた「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」⁵⁾には、「基礎的・汎用的能力」とこれまでに提唱されてきた関連する諸能力との関係について(試案)が示されている。授業ではこれを活用し、「社会人基礎力」とは何かを説明したのち、「基礎的・汎用的能力」と「社会人基礎力」との関係を説明することにした。下の図は、今回の授業で追加して使用したスライド資料の一部である。



また、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」につ

5 キャリア教育で身に付けさせたい能力

ア 人間関係形成・社会形成能力
 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて
 柔軟性 傾聴力
 自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置
 発信力
 かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・
 情報把握力
 協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成すること
 働きかけ力 規律性
 ができる力

いては、左図のスライド資料のように、能力の説明文に、「社会人基礎力」の諸能力を付記したスライド資料を提示した。

さらに、2007年に経済産業省が実施した「企業の「求める人材像」調査 2007～社会人基礎力との関係～」⁶⁾の結果を提示し、東証一部上場企業では、「若手社員に不足が見られる社会人

基礎力」として「主体性」「働きかけ力」「課題発見力」「創造力」が挙げられていることを説明し、「基礎的・汎用的能力」で特に重視したい能力を考えさせた。

4 学習指導要領改訂に伴い修正した指導内容の例

前述の中教審答申は「価値観には、「なぜ仕事をするのか」「自分の人生の中で仕事や職業をどのように位置付けるか」など、これまでキャリア教育が育成するものとしてきた勤労観・職業観も含んでいる。子ども・若者に勤労観・職業観が十分に形成されていないことは様々に指摘されており、これらを含む価値観は、学校における道徳をはじめとした豊かな人間性の育成はもちろんのこと、様々な能力等の育成を通じて、個人の中で時間をかけて形成・確立していく必要がある。」と示しており、生徒の勤労観・職業観等の価値観を形成するために道徳が重要であることを指摘している。

また、中学校において「特別の教科 道徳」は、どの教科の教員も担当する可能性があるため、学習指導要領の改訂に伴い、修正が必要と考えられる指導内容の例として、中学校キャリア教育の手引きの第3章第4節各教科等における取組の「道徳」(pp.180-182)を授業で扱うことにした。

ここには、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」に関連する内容項目を分類整理した例が、表1のように示されている。

- 1 主として自分自身に関すること
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

表1 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する道徳の指導内容の例

勤労観・職業観等の価値観			
人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
礼儀 2-(1)	望ましい生活習慣	生命尊重 3-(1)	強い意志 1-(2)
思いやり 2-(2)	1-(1)	自然愛護 3-(2)	自主・自律 1-(3)
信頼、友情 2-(3)	強い意志 1-(2)	人間の気高さ 3-(3)	理想の実現 1-(4)
異性理解 2-(4)	自主・自律 1-(3)	家庭生活の充実	自己理解、個性の伸長
寛容、謙虚 2-(5)	理想の実現 1-(4)	4-(6)	1-(5)
感謝 2-(6)	自己理解、個性の伸長	よりよい校風の樹立	権利、義務 4-(1)
権利、義務 4-(1)	1-(5)	4-(7)	役割、責任 4-(4)
公德心、社会連帯	生命尊重 3-(1)	郷土の発展への貢献	勤労の意義と尊さ
情報モラル 4-(2)		4-(8)	4-(5)
正義、公正公平		伝統の継承と文化の創造への貢献 4-(9)	
4-(3)		国際社会への貢献	
集団生活の向上、役割、責任 4-(4)		4-(10)	
勤労の意義と尊さ、奉仕の精神 4-(5)			

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」では、「第2内容」は、道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を以下の4つの視点に分けて示しているが、内容項目のまとまりを示していた視点をA～Dのように生徒にとっての対象の広がりによって整理し、従前の順序を変更している。

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

表2は、「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する「特別の教科 道徳」の指導内容の例を、学習指導要領の改訂に伴い、修正して生徒に提示した私案である。

表2 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する「特別の教科 道徳」の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
6 思いやり、感謝 B-1	1 自主、自律、自由 と責任 A-1	14 家族愛、家庭生活 の充実 C-5	1 自主、自律、自由 と責任 A-1
7 礼儀 B-2	2 節度、節制 A-2	15 よりよい学校生活 集団生活の充実 C-6	3 向上心、個性の伸 長 A-3
8 友情、信頼 B-3	3 向上心、個性の伸 長 A-3	16 郷土の伝統と文化 の尊重、郷土を愛 する態度 C-7	4 希望と勇気、克己 と強い意志 A-4
9 相互理解、寛容 B-4	4 希望と勇気、克己 と強い意志 A-4	17 我が国の伝統と文 化の尊重、国を愛 する態度 C-8	5 心理の探究、創造 A-5
10 遵法精神、公德心 C-1	5 真理の探究、創造 A-5	18 国際理解、国際貢 献 C-9	12 社会参画、公共の 精神 C-3
11 公正、公平、社会 正義 C-2	19 生命の尊さ D-1	19 生命の尊さ D-1	13 勤労 C-4
12 社会参画、公共の 精神 C-3		20 自然愛護 D-2	
13 勤労 C-4		21 感動、畏敬の念 D-3	
		22 よりよく生きる喜 び D-4	

このように、キャリア教育の手引きには、学習指導要領の改訂に伴い、修正が求められる箇所があることを説明した。

なお、改訂された「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」(p.145)には、改訂された指導内容の例が掲載されている。学生に提示した私案と比較すると、「人間関係形成・社会形成能力」では、「13 勤労 C-4」が含まれず、「14 家族愛、家庭生活の充実 C-5」と「15 よりよい学校生活、集団生活の充実 C-6」が含まれているなど、表2とは、指導内容が少し異なっている。この点については、対象となる学生に秋学期の別の授業で「キャリア教育の手引き」が改訂されたことと併せて説明した。

また、「特別な教科 道徳」の教科書には光村図書のように、教材毎に現代的な課題等との関わりとして、キャリア教育を示しているものがある。次頁の表3は、光村図書の教科書において、キャリア教育として示されている教材と関係する「基礎的・汎用的能力」をまとめたものである。

表3 中学校「特別の教科 道徳」の教科書における教材と関係する「基礎的・汎用的能力」

学年	教材名	内容項目	基礎的・汎用的能力
1年	栄光の架橋	4 希望と勇氣、克己と強い意志	A-4 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
1年	父の言葉	6 思いやり、感謝	B-1 人間関係形成・社会形成能力
1年	学習机	7 礼儀	B-2 人間関係形成・社会形成能力
1年	私が働く理由	13 勤労	C-4 人間関係形成・社会形成能力 キャリアプランニング能力
1年	なおしもん	16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	C-7 課題対応能力
1年	ひまわり	19 生命の尊さ	D-1 課題対応能力
1年	捨てられた恋し	19 生命の尊さ	D-1 課題対応能力
1年	獲れなかった一枚の写真	22 よりよく生きる喜び	D-4 課題対応能力
2年	優しさの光線	3 向上心、個性の伸長	A-3 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
2年	雪に耐えて梅花麗しー黒田博樹	4 希望と勇氣、克己と強い意志	A-4 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
2年	夢を求めてパラリンピック	4 希望と勇氣、克己と強い意志	A-4 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
2年	スカイツリーにかけた夢	5 真理の探究、創造	A-5 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
2年	秀さんの心	7 礼儀	B-2 人間関係形成・社会形成能力
2年	段ボールベッドへの思い	13 勤労	C-4 人間関係形成・社会形成能力 キャリアプランニング能力
2年	命が生まれるそのときに	19 生命の尊さ	D-1 課題対応能力
2年	宇宙の始まりに思いを寄せて	21 感動、畏敬の念	D-3 課題対応能力
3年	メダルの向こう側に	4 希望と勇氣、克己と強い意志	A-4 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
3年	『落葉』ー栗田春草	4 希望と勇氣、克己と強い意志	A-4 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
3年	根本を究めてー「お茶博士」辻村みちよ	5 真理の探究、創造	A-5 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
3年	私が目指した白ー陶芸家・前田昭博	5 真理の探究、創造	A-5 自己理解・自己管理能力 キャリアプランニング能力
3年	嵐の後に	8 友情、信頼	B-3 人間関係形成・社会形成能力
3年	二通の手紙	10 遵法精神、公德心	C-1 人間関係形成・社会形成能力
3年	聖地甲子園の土守	13 勤労	C-4 人間関係形成・社会形成能力 キャリアプランニング能力
3年	障子あかり	17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	C-8 課題対応能力
3年	希望の義足	18 国際理解、国際貢献	C-9 課題対応能力
3年	サクラダ・ファミリー受け継がれていく思い	21 感動、畏敬の念	D-3 課題対応能力
3年	手紙	22 よりよく生きる喜び	D-4 課題対応能力

5 授業改善の取組による学生への効果

14回の授業の最後に、「キャリア教育では、身に付けさせたい能力として、4つの「基礎的・汎用的能力」を示しています。あなたが教員として、生徒に特に力を入れて身に付けさせたい能力は何ですか。一つ選んで、その理由を書きなさい。」という課題を出題した。その結果、図2のように、104人の学生のうち51人（49.0%）が「人間関係形成・社会形成能力」を、26人（25.0%）が「自己理解・自己管理能力」を、23人（22.1%）が「課題対応能力」を、4人（3.9%）が「キャリアプランニング能力」を選択した。

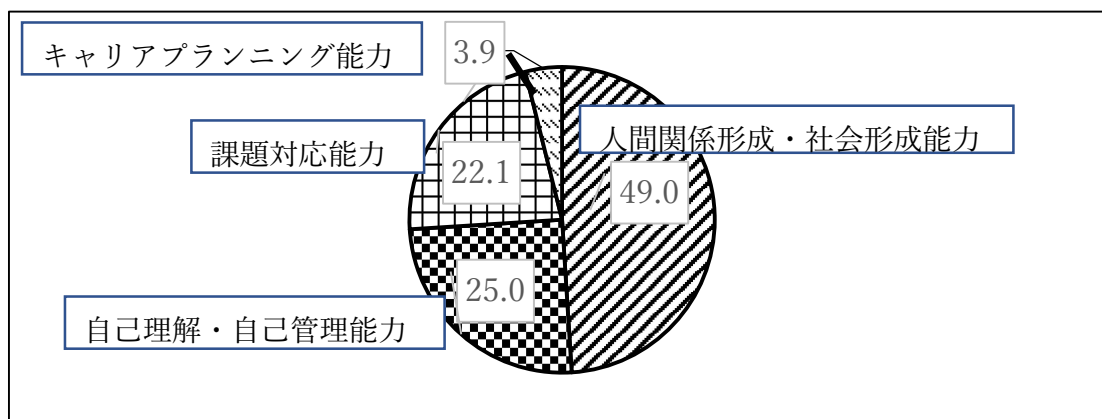


図2 学生が力を入れて身に付けさせたい「基礎的・汎用的能力」(数値は%)

また、選択した理由としては、「多くの社会人基礎力を含んでいるため」、「職場でこの力が高く評価されるから」などを挙げた学生が多かった。

このような結果となった理由として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」の3つの能力については、「社会人基礎力」との関連を授業で扱ったため、学生が「基礎的・汎用的能力」を社会に出てから必要となる能力として捉え、特に力を入れて身に付けさせたいと考えたためではないかと推察している。

なお、学生の理解度を前年度と比較するため同一問題をで出題したところ、試験全体の平均正答率は前年度が73.8%であったのに対して、今年度は76.6%とあまり変化はなかったが、「基礎的・汎用的能力」の内容を問う問題の正答率は63.9%から80.0%に向上した。キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」育成の重要性について、概ね学生の理解を得ることができたのではないかと考えている。

Ⅱ部 「基礎的・汎用的能力」を育成している実践事例

2011年1月の中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」²⁾では、キャリア教育の意義・効果として次の3点を挙げている。第一に「一人一人のキャリア発達や個人としての自立を促す観点から学校教育を構成していくための理念と方向性を示す」、第二に「将来、社会人・職業人として自立していくために発達させるべき能力や態度があるという前提にたって、各段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動を通して達成させることを目指す」、第三に「学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業とを結びつけることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さが確認できる」としている。この3点を踏まえた実践事例を紹介する。

1 既存の教育活動をキャリア教育によって再構成し学校改革を進めた事例

A高等学校は、中山間地に立地する1学年3学級の普通科小規模校である。通学の利便性や周辺地域の中学生減少によって生徒募集に苦勞し、入学生徒の学習意欲や自己肯定感に課題を抱える中、校外での継続的なボランティア活動や体験を、学校教育法施行規則に基づく「学校外における学修」として単位認定したり、地域社会の要請に基づく観光事業、地域防災、こども園や老人福祉施設等での地域貢献活動を奨励したりするなどして、生徒の学校や地域社会への帰属感や自己肯定感を高める等の改善工夫を積み重ねてきた。一方で、これらの活動を生徒の成長の過程として評価することや、各教科の授業改善と進路指導の改善に十分結びついていないという課題を抱えていた。

こうした中、2014年度から3年間、文部科学省から「『確かな学力の育成にかかる実践的調査研究』における学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（高等学校）」の事業指定を受け、「地域社会に貢献し地域社会に育ててもらえる学校」づくりを掲げ、「授業改善」「地域連携」「キャリア教育」「授業力向上」を4つの柱として学校改革に取り組んだ。この中で、従前から取り組んできた多様な地域連携活動をキャリア発達や社会的自立を促す観点から再定義し、「基礎的・汎用的能力」の育成に向けて再評価・再構成を進めた。次は、それらの一部をまとめたものである⁷⁾。

地域連携活動名	地域資源	講師と活動の内容
①地域名産品開発	地域の洋菓子店の店長	洋菓子店長を講師として迎え、地元の食材を使った商品開発を行った。生徒は地域名を盛り込んだ商品名やポスターを考案、事前広告、製造、パッケージし、地域のイベントで販売した。
②郷土文化継承	地域の保存会の方々	郷土芸能「棒の手」保存会の方々を講師として迎え、「棒の手」の歴史や技術を学び、校内の文化祭で保護者や地域社会の方々に披露した。
③地域行事の企画・運営に協力	市役所支所 観光協会	市役所の支所や観光協会の方々の要請を受けて、地域の行事・観光イベントや地域の防災イベントの企画や運営に協力した。
④地域ボランティアの継続実施	福祉施設、こども園	老人福祉施設の行事で継続的なボランティア活動、こども園で園児への継続的な読み聞かせ活動を継続的に実施した。
⑤同窓生からのキャリア教育	同窓会	地域で活躍する同窓生を講師に迎え、働く意義や社会人に必要な力等の講話を聴く。面接練習の面接官として指導を受ける。

次は、「①地域名産品開発」に取り組んだ生徒が、開発した商品を地域イベントで販売し、即日売り切れとなる成功体験をした後、振り返りシートに記した感想である。この経験を通して、洋菓子店長の善意や来場した住民とのつながりを実感し、自己効力感とともに働く上で負うべき責任の自覚も得ており、基礎的・汎用的能力の向上と成長を確認できる。

- （生徒X）出店に向けて、ポスターやパッケージなどのデザインを担当しました。もともとデザインすることは好きでしたが、実際に自分がデザインしたものが商品になって、お客様の手にわたっていくのを見て、とても感激しました。自分の作ったポスターを見て、どんなお菓子かと買いに来てくれたお客様もみえたので、とてもうれしい気持ちになりました。
- （生徒Y）お菓子作りでは、飾り付けが上手いかず色々大変でしたが、講師の〇〇様に指導していただきながら完成させることができました。また、安全なものを食べていただくために、衛生面ではいつも以上に注意を払い、商品を作りました。仕事として食品を扱うのは、細かなところまで色々なことに気を配らなくていけないということもわかりました。

2 系統的なキャリア教育を基軸として教育活動全体の質向上を進めた事例

B高等学校は、2007年度に普通科から総合学科へと組織改編し、1学年6学級、7系列（総合探究系列・人文国際系列・自然科学系列・フードコーディネーター系列・情報ビジネス系列・福祉ネットワーク系列・ライフクリエーション系列）を有する学校である。総合学科は、「普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科であり、高等学校教育の一層の個性化・多様化を推進するため、普通科、専門学科に並ぶ新たな学科」⁸⁾として設けられたものである。教育課程の特色として、「自己の進路への自覚を深めさせるとともに、将来の職業生活の基礎となる知識・技術等を修得させるため」、原則として全ての生徒に履修させる「産業社会と人間」を開設することとされている。すなわち、教育活動の基軸にキャリア教育が据えられた学校であるといえる。B高等学校では、地域社会や企業との連携のもと、探究活動を軸とした3年間の系統的なキャリア教育を構築している。次は、その概要である。

学年・教科名・単位数	内容
第1学年 産業社会と人間 (キャリア探究Ⅰ)、2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・学問・仕事研究(大学・企業訪問) ・社会人講話 ・探究基礎→探究実践→発表 ・ライフプランニング学習→7つの系列の選択 ①文理系列、②文系列、③理系列、④情報・商業系列 ⑤福祉系列、⑥家庭・調理系列、⑦就職系列
第2学年 総合的な探究の時間 (キャリア探究Ⅱ)、1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年から7つの系列に分かれて学習 ・課題解決学習→学級ごとに1外部団体・企業と連携して問題を解決する方法を考える。 ・個人探究→生徒一人一人が興味関心のあるテーマを設定して探究する。
第3学年 総合的な探究の時間 (キャリア探究Ⅲ)、2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・個人探究→第2学年の個人探究の継続→発表 ・系列・ゼミ別探究 →これまでの学習を生かし、系列ゼミ別に探究→総合学科全校発表会

また、B高等学校では、独自に「キャリアノート」を作成し、全ての生徒に2つの活動を義務付けている。一つは、「キャリアパスポート」の作成である。学校行事や全校活動、または部活動や資格取得等、自分独自の経験をした際には、キャリアノートに所収の「マイキャリア (B高等学校キャリアパスポート)」(活動区分、活動時期、活動・大会名、メモ①②③の項目からなる様式) に記入するとともに、自身の成果物や学びを振り返ることができる資料等を「キャリアパスポートファイル」に綴じて保管し、ポートフォリオとしている。もう一つは、「ライフプランシート～あなたのキャリア見通し～」の作成である。次は、キャリアノートに掲載された記入例(大学用)である。なお丸数字は生徒が記入する順番である。

【ライフプランシート～あなたのキャリア見通し～】の作成例

①夢(10年後) 格差で苦しむ人々を政治の立場から救う	→	②具体的な職業 市町村議会議員 …目の前で困っている人を助けたい。
④高校卒業直後 〇〇大学〇〇学部で、様々な政治哲学、若者の低投票率への対策等を学ぶ	→	⑤〇〇教授のゼミ …オープンキャンパスで政治哲学の講義を受けた。 選挙ボランティア等 → …政治の現場で何が起きているのかを知る。
⑥残りの高校生活 大学で学ぶための基礎を身に付ける	→	⑦総合探究系列 政治を学ぶ上で必要な「国際的な視点」を身に付ける。コミュニケーション能力と社会問題を探究する態度を身に付ける。 → 政治への「探究」 毎日、新聞3紙を読み比べる。外部の講演会に参加。読書。
③夢を持ったきっかけ 現代社会の授業で1つの社会問題を多面的に見ることの重要性を学んだ。	→	⑧部員を巻き込んで校内清掃 …皆に快適な生活を送ってもらうために提案し、実現させる。

このシートの特徴は、最初に「①夢(10年後)」を「自分以外の人間のために〇〇する」などの表現として確定し、次に「②具体的な職業」として「①を実現するために「どんな仕事

をしたいか」及びその理由を記入」させる点である。「基礎的・汎用的能力」の中の「キャリアプランニング能力」の育成方法を様々に模索する中で、B高等学校生徒の生活実態や学習状況をよく知る教員が協力して独自教材を開発し、教員全体で共有し、効果的に活用することで、系統的なキャリア教育を構築した実践例であるといえる。

3 総合的な探究の時間に「地域と連携したキャリア教育」を導入し、学習意欲や学校生活の質の向上を進めた事例

C高等学校は、1学年6学級の普通科中規模校である。生徒の進路希望の多くは大学進学であり、医療分野や福祉分野の進路希望では専門学校も含んでいる。以前から社会的・職業的自立に向けた取組の不足が指摘されていたので、現行学習指導要領の実施にあたり、総合的な探究の時間で、地域と連携したキャリア教育プログラムの開発に取り組むこととした。

第1学年の「総合的な探究の時間」（1単位）において、地元自治体の将来ビジョンにある「安心して暮らせる魅力的な地域をつくる」を踏まえ、この具体化やその過程で発生する様々な課題の解決に向けてどのような方法や方策があるのか考え検証する。身近な地域社会の課題解決に向けて、社会人講師から学び、仲間と協働しながら取り組むことを通して「基礎的・汎用的能力」の育成を図ることとした。具体的には、4～5人のグループで探究班を作り、地域課題として6つのテーマを提示する中から選び、課題解決に取り組んでいく。6テーマごとに町役場や地元企業から社会人講師をアドバイザーとして招聘し、専門的立場からの指導や助言を受ける。以下は、探究テーマとアドバイザーをまとめたものである。

探究テーマ	アドバイザー
①町が力を入れている有機農業・野菜を活用した地域活性化を提案する。	町役場産業振興課の職員
②大規模商業施設が開業し、交通網の整備や都市機能の集約化が求められている、中心部の開発の施策を提案する。	町役場都市計画課の職員
③若者世代の転出を抑制するためにも、出産・子育てしやすい自治体づくりを目指す施策を提案する。	町役場子育て支援課の職員
④地元企業であるドローン運営会社の協力を得て、ドローンを活用した地域貢献策を提案する。	ドローンを運営する地元企業の経営者
⑤長寿の町として健康寿命の延伸を目指し、健康づくり支援のための施策を提案する。	地元歯科・矯正歯科の医師
⑥自家用車の交通量が多い自治体にあつて、自転車のヘルメット着用率の向上等、周辺地域の交通安全を推進する提案を行う。	自転車及び部品を販売する地元企業の経営者

地域課題の解決に向けて具体的な施策提案を目指す探究活動の中で、自治体行政職員や企業経営者等から指導や助言を直接受け、質疑応答や話し合いを進めることができた。生徒は、地域課題の解決のためには、日々の授業や学校生活を通して養う理解力や思考力、人間関係形成能力等が不可欠であることを確認した。学校生活と社会生活や職業生活とを結び、関連付け、将来の夢と学業とを結びつけることにより、学習意欲を喚起する実践である。

おわりに

2023年3月に改訂された「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」では、「基礎的・

汎用的能力」について、これらがまとめられた経緯や「社会人基礎力」などの各能力論との関係が、従前より詳しく記述されている。また、キャリア・パスポートの必要性やその活用事例なども記述されており、今回実施した授業改善の方向性が適切なものであったと考えている。

次年度の教職課程「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の授業では、改訂された「キャリア教育の手引き」を参考資料とするため、従前との内容の違いをしっかりと把握するとともに、愛知県内の高等学校における「基礎的・汎用的能力」育成の実践事例の成果を活用して授業資料を変更し、より一層充実した授業となるよう工夫していきたい。

参考文献

- 1) 笹尾幸夫 2021 『教職課程「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の指導充実に目指して ―キャリア・パスポート導入の実態を活用した取組―』 pp. 46-54
南山大学教職センター紀要第8号
- 2) 中央教育審議会 2011 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』 pp. 25-27 文部科学省 HP
(https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf) 2024. 1. 6 閲覧
- 3) 文部科学省 2023 『中学校・高等学校キャリア教育の手引き ―中学校・高等学校学習指導要領（平成 29 年・30 年告示）準拠―』 実業之日本社
- 4) 経済産業省中小企業庁 2018 『我が国産業における人材力強化に向けた研究会（人材力研究会）報告書』 pp. 27-30 中小企業庁 HP
(<https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/jinzaikyoka/2018/180312jinzaikyoka02A.pdf>) 2024. 1. 6 閲覧
- 5) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2011 『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』 pp. 30-34 国立教育政策研究所 HP
(https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career_shiryoku/pdf/career_hattatsu_all.pdf) 2024. 1. 6 閲覧
- 6) 経済産業省 2007 『企業の「求める人材像」調査 2007～社会人基礎力との関係』 p. 9 経済産業省 HP
(http://humanforce.web.fc2.com/ren_jian_lipurojekuto/Record/Record_files/siryoku1.pdf) 2024. 1. 6 閲覧
- 7) 愛知県立加茂丘高等学校 2015 『文部科学省指定事業「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（高等学校） 中間報告書（研究1年目）』 pp. 33-48
- 8) 文部省初等中等局長通知 1993 「総合学科について」 文部科学省 HP
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/seido/1258029.htm)
2024. 1. 14 閲覧